（様式2）

**TEPIAチャレンジ助成事業2019　申請書**

**（1）開発ロボットの名称等**

|  |  |
| --- | --- |
| 開発したいロボットの名称 |  |
| どういったロボットなのか  （簡潔に） |  |

**（2）開発目的・開発方法**

作成要綱を参照して、**別紙（A4サイズ　5枚以内・形式自由）に「開発計画書」としてまとめてください**。

**（3）開発費の用途**

助成金をどのような用途に使う予定か、箇条書きで記入してください。

|  |
| --- |
|  |

**（4）開発の実績**

これまでロボットなどの開発・発表・受賞実績（文化祭での開発・発表、競技大会や学会発表など）がある場合は、記入してください。

|  |
| --- |
|  |

**（5）アンケート**

**あてはまる内容の□を■に変更してください。**

＜条件について＞

□開発を監督・指導する者がいて、学校の同意を得て同意書と推薦書を提出できますか。

□オンラインによる面談（Skype、Googleハングアウト、FaceTime等を使用）が実施可能ですか。

□1１月３日（日）の成果発表「TEPIAロボットグランプリ」（会場：TEPIA先端技術館）に参加できますか。

＜スキルについて＞

□ロボット制作をしたことがありますか？

□電子工作をしたことがありますか？

□プログラミングの経験はありますか？

□Arduino RasｐberryPi　PICなどのマイコンボードを使ったことはありますか？

□サーボモータとはなにかわかりますか？

□PWM制御とはなにかわかりますか？

**【注意事項】**

①申請情報の不備や審査の正常な進行・運営に支障をきたすと認められるものについては、申請を無効とする場合があります。

②応募にあたり、文献、論文、新聞・雑誌の記事、テレビなどの映像番組、第三者の研究・著作物を参考にしている場合は、参考資料として必ず明記すること。不備がある場合、審査対象外となる可能性があります。また、審査終了後であっても採択取り消しとなる場合があります。

③提出物（開発成果含む）は事務局に提出された時点で一般に公開されたものとみなします。また、審査会終了後に報告書や、雑誌記事、ウェブサイトなどへ公表される場合があります。

④開発費の使用用途について、開発期間中や終了後に報告をお願いする場合があります。